

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520388

研究課題名(和文)「ネオ・ヨアキム主義」研究 ドイツにおけるメレシコフスキー受容を中心に

研究課題名(英文) Zum "Neo-Joachismus". Mereschkowski-Rezeption in Deutschland.

研究代表者

小黑 康正 (Oguro, Yasumasa)

九州大学・人文科学研究科(研究院)・教授

研究者番号：10294852

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、三位一体説に基づく歴史認識で黙示録を解釈した12世紀イタリアの修道院長フィオーレのヨアキムを扱いながら、ドイツ(レッシング、ヘーゲル、イブセン、トーマス・マン、カンディンスキー、メラール・ファン・デン・ブルック)におけるメレシコフスキー受容を考察し、近現代における「ネオ・ヨアキム主義」の文学史的・思想史的意義の究明を行った。

研究成果の概要(英文)：Die apokalyptische Utopie vom Dritten Reich war seit der Lehre des Joachim von Fiore in der Geschichtsphilosophie und mancher Heilslehren einflussreich, und auch in der Moderne freilich in unterschiedlichen Ausprägungen, die vom Uebergang zum abstrakten Gemälde ueber die literarische Ueberbrueckung zwischen der konservativen Revolution und dem Manifest fuer die Weimarer Republik bis zum politischen Propaganda-Mythos reichen. Nirgendwo hat sich der Neo-Joachismus so entscheidend niedergeschlagen wie in Deutschland.

研究分野：ドイツ文学

キーワード：トーマス・マン フィオーレのヨアキム メレシコフスキー メラール・ファン・デン・ブルック カンディンスキー ネオ・ヨアキム主義

1. 研究開始当初の背景

人間の歴史は、聖書的な歴史認識によると、エデンの園を追放された時に始まり、新しいエルサレムに入る時に終る。このような目的論的であり、不可逆的であり、直線的である神学的な歴史意識が、さまざまな世俗化を経ながらも、キリスト教文化圏を決定的に刻印してきた。本研究で注目するのは、「始原」と「終末」に挟まれた「歴史」をあえて数的に分割しようとする二つの志向である。ひとつは黙示録の前近代的な受容として終末論的な「民衆」運動を生み出した「千年王国説」であり、もうひとつは黙示録の近代的な受容として弁証法的かつ歴史哲学的な「精神」運動を生み出した「第三の国」をめぐる思想である。

「千年王国説」も「第三の国」の思想もともに黙示録に基づく。しかし、従来の研究では、N・コーン『千年王国の追求』(1961)やK・フォンディングの研究(Klaus Vondung: *Apokalypse in Deutschland*. München 1988.)が示すように、それぞれ独自の個別現象として考察されてきた。このことは、近年の代表的研究(G. R. Kaiser (Hrsg.): *Poesie der Apokalypse*. Würzburg 1991; B. U. Schipper u. G. Plasger (Hrsg.): *Apokalyptik und kein Ende?* Göttingen 2007.)でも同様のことが言えよう。総じてドイツにおける黙示録受容(特に「ネオ・ヨアキム主義」)の研究は、保守思想との深い結びつきゆえに慎重を要し、いまだ検討の余地が少なくない。

このような状況の中で、研究代表者は、三位一体説に基づく歴史認識で黙示録を解釈した12世紀イタリアの修道院長フィオーレのヨアキムに関心を抱き、近現代における「ネオ・ヨアキム主義」の究明を行うに至った。

2. 研究の目的

聖書の最後に配され、多種多様な幻視とともに歴史の最後を扱うヨハネの黙示録は、諸芸術に多くの素材を提供し続けながら、ヨーロッパの歴史意識を形成し、E・R・クルツィウスに依拠して言えば、同時に類型的な「表現」あるいは「思考」としての黙示録的トポスを培ってきた。総じてヨーロッパの文化や思想は、特定の状況や問題において、それに見合う古代の伝統的な表現や思考をほとんど「常套句」のように必要としながらも、それを新たな状況やコンテクストの中に組み込んでいく。その結果、古代の「常套句」は多少の変容を蒙りながらも、ある程度原型を失わずに現代に蘇り、しかも新たなものを吸収し、増殖し、再び根源に戻っていく。トーマス・マンの言を援用するならば、こうして「回帰する諸モ

ティーフに満たされた一つの濃密な伝統領域」(Thomas Mann: *Gesammelte Werke in dreizehn Bänden*. Frankfurt a. M. 1990, Bd. VI, S. 474.)が黙示録を出自として形成されてきた。これがすなわちトポスとしての「黙示録文化」である。

本研究では、「黙示録文化」に関する研究の一環として、フィオーレのヨアキムを出自とする「第三の国」Das dritte Reichの思想が、レッシング、ヘーゲル、イプセン、メレシコフスキー、カンディンスキー、メラウ・ファン・デン・ブルック、トーマス・マンなどに見られる弁証法的かつ歴史哲学的な「ネオ・ヨアキム主義」として展開し、その後、「第三帝国」Das dritte Reichへと行き着く過程を検討する。

3. 研究の方法

これまで研究代表者は、トポスとしての「黙示録文化」が近現代ドイツ文学においていかに文学的に結晶化しているかという問いを立てながら研鑽を積み、「黙示録文化」の結晶化を、(1)第一次世界大戦期の表現主義、(2)二つの世界大戦を経験したトーマス・マン、(3)戦後ドイツ文学を代表するインゲボルク・バッハマンにそれぞれ新たに認めた。その代表的な成果は、以下のとおりである。

〔表現主義〕

小黒康正「黙示録文化におけるドイツ表現主義—クルト・ピントゥスの『人類の薄明』をめくって—」、日本独文学会『ドイツ文学』第104号、2000年。

〔トーマス・マン〕

Yasumasa Oguro: Thomas Manns „Zauberberg“ als Spielraum von Erinnerung und Vergessen. In: *Berichte der Asiatischen Germanistentagung 1999 Fukuoka*. Hrsg. von der Japanischen Gesellschaft für Germanistik. Tokyo 2000, S. 350-357.

小黒康正『黙示録を夢みるとき トーマス・マンとアレゴリー』、2001年。

小黒康正編『トーマス・マン『魔の山』の「内」と「外」——新たな解釈の試み——』、日本独文学会研究叢書 041号、2006年。

〔インゲボルク・バッハマン〕

Yasumasa Oguro: „Komm. Nur einmal./ Komm.“ Intertextuelle Bezüge zwischen Ingeborg Bachmanns „Undine geht“ und der Offenbarung des Johannes. In: *Kairos*. Hrsg. von der Kairos-Gesellschaft für Germanistik (Fukuoka), Bd. 32 (1994), S. 34-73.

Yasumasa Oguro: Das apokalyptische

Kulturgedächtnis der deutschen Literatur im 20. Jahrhundert. Überblick und Ingeborg Bachmanns Beispiele. In: Evokationen. Gedächtnis und Theatralität als kulturelle Praktiken. Hrsg. von der Japanischen Gesellschaft für Germanistik. München 2000, S. 85-95.

Yasumasa Oguro: Opferung und Apokalypse - Intertextualität zwischen Ingeborg Bachmanns „Undine geht“ und Kyoka Izumis „Yashaga-ike“. In: Undine geht nach Japan. Zu interkulturellen Problemen der Ingeborg Bachmann-Rezeption in Japan. Hrsg. von Hannelore Scholz, Berlin 2001, S. 55-68.

小黒康正「『水の女』の黙示録 インゲボルク・バッハマン『ウンディーネ行く』をめぐって」九州大学大学院人文科学研究「文学研究」第107号(2010) 95-128頁(並びに、九州大学文学部『創立八十五周年記念論文集』上巻、2010年、615-648頁)

〔黙示録文化〕

Yasumasa Oguro: Die Dialektik der apokalyptischen Kultur. – Ist das Ende vom Ende möglich? – In: Dogilmunhak. Koreanische Zeitschrift für Germanistik. Band 78 (2001), 42. Jahrgang, Heft 2. Seoul/Korea, S. 147-154.

Yasumasa Oguro: Apokalypse als Topos – Geheimnisvolle Töne in der deutschen Literatur. In: Medien und Rhetorik. Grenzgänge der Literaturwissenschaft. Hrsg. von der Japanischen Gesellschaft für Germanistik. München 2003, S. 175-185.

以上のとおり、考察対象が20世紀ドイツ文学に限られたものの、個人が行う研究としては多岐にわたり、しかも、研鑽の成果は、ドイツ語による執筆を通じて、積極的に国際的に発信された。

本研究は、これまでの研鑽の成果を踏まえながら、考察の中心を「ネオ・ヨアキム主義」に絞る。具体的には、フィオーレのヨアキムならびに「ネオ・ヨアキム主義」に関連する文献収集と、関連領域である保守革命に関する資料調査を(九州大学、北海道大学、チューリッヒ工科大学附属トーマス・マン文書館などで)行い、文献学ならびにトポス論の観点を踏まえつつ、トーマス・マンを基軸に、近現代ドイツ文学ならびに思想における「第三の国」をめぐる考察を行う。

4. 研究成果

本研究は、レッシング、ヘーゲル、イブセン、トーマス・マン、カンディンスキー、メラナー・ファン・デン・ブルックにおけるメレ

シコフスキー受容を主として考察し、近現代ドイツにおける「ネオ・ヨアキム主義」の文学史的・思想史的意義の究明を行った。

但し、研究代表者は、本研究の過程で、問題領域の広さと深さを痛感し、「黙示録文化」(特にトポスとしての「第三の国」)を網羅的に検証する共同研究の必要性を感じたため、平成26-30年度科学研究費補助金基盤研究(B)の交付を受けて、「ドイツの文学・思想におけるトポスとしての「黙示録文化」—「終末」の終末は可能か—」という新たな研究プロジェクトを国際的に立ち上げ、現在に至っている。この結果、平成26年度まで続く予定であった本研究は、平成25年度で打ち切られた。但し、本研究の課題は実質的に新しい研究プロジェクトにて継続されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

Yasumasa Oguro: Neo-Joachismus auf der „geistigen Insel“ in München. Kandinsky, Mereschkowski und Thomas Mann. In: Publikationen der internationalen Vereinigung für Germanistik (IVG). Akten des XII. internationalen Germanistenkongress Warchau 2010. Vielheit und Einheit der Germanistik weltweit. Hers. von Franciszek Grucza. Bd. 14. Frankfurt a. M.: Peter Lang 2012, S. 451-457. (査読なし)

小黒康正「孤独化するディレッタント ブールジェ、マン、カスナーの場合」九州大学独文学会「九州ドイツ文学」第26号(2012) 1-26頁。(査読あり)

<http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/recordID/26531>

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計2件)

片岡啓・清水和裕・飯嶋秀治編『生と死の探求』九州大学出版会、2012年、208頁(担当:169-179頁)

小黒康正『水の女 トポスへの船路』九州大学出版会、2012年、271頁(特に、終章「水の女」の黙示録 バッハマン)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

研究成果の一部を、九州大学文学部独文学研究室のホームページ(<http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~ger>)

man/)にて公にした。

平成 25 年 10 月 15 日から 18 日の間に東北
大学文学部で行った集中講義「第三の国」
にて、研究成果の一部を教育活動に活かし
た。

6 . 研究組織

研究代表者

小黒 康正 (OGURO YASUMASA)

九州大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：10294852